

# 多文化共生キーパーソンヒアリング報告書

令和5年10月

# 多文化共生キーパーソンヒアリングについて

目的	第3次伊勢崎市総合計画の策定に当たり、多文化共生キーパーソンへのヒアリングを行い、計画策定及び今後の市政運営に活用する基礎資料とするため。
対象	多文化共生キーパーソン7名うち、回答者6名（事前アンケートの回答のみの方を含む） ※多文化共生キーパーソンとは・・・地域における多文化共生の推進に中心的な役割を果たしている市民等
実施方法	・将来に向けた多文化共生に係る事前アンケートを実施 ・以下の観点でヒアリング項目を設定し、対面によるヒアリングを実施 →アンケート結果のうち共通して回答のあった項目で、かつ、具体的な内容を確認したほうがよいもの →アンケート結果だけでは具体的場面が想像しにくいもの
実施日	令和5年7月13日（木）18:00～18:30 @市役所東館4階打合室 及び ZOOM（オンライン）
ヒアリング内容	<ol style="list-style-type: none"><li>1. キーパーソンとして活動をしてきて、日本人と外国人がともに生きることができるあなたの理想の社会に近づいていると思いますか。</li><li>2. 外国人と日本人がともに生活するために、市役所が積極的に行わなければならないことがあれば教えてください。</li><li>3. 外国人と日本人がともに生活するために、日本人が積極的に行わなければならないことがあれば教えてください。</li><li>4. 外国人と日本人がともに生活するために、外国人が積極的に行わなければならないことがあれば教えてください。</li><li>5. 国籍が異なる外国人同士とともに生活するために大切にしなければいけないことはありますか。</li><li>6. 日本語をうまく話せない子どもたちが、しっかりと教育を受けるために必要なことがあれば教えてください。</li></ol>

# ヒアリング内容ごとの意見の要旨について

## 設問

## 聞き取り要旨

1

キーパーソンとして活動をしてきて、日本人と外国人がともに生きることができるあなたの理想の社会に近づいていると思いますか。

- 良くなっている点………行政が多文化共生に向けて取り組む姿勢を見せていること  
市役所の職員やお店の店員などの外国人への接し方  
様々な情報が入手しやすくなっていることや、市役所の外国人総合相談窓口の充実、発信される情報が多言語化されている
- 共生社会の実現に向けて…理想の共生社会の実現に向けてキーパーソンの活動をできる方を増やす

2

外国人と日本人がともに生活するために、市役所が積極的に行わなければならないことがあれば教えてください。

- 言語に関する支援………情報発信の多言語対応を充実することによって、情報を外国人により伝わりやすくする
- 日本語習得への支援………日本語教室の充実や拡充（特に外国人が多く住んでいる地域を対象に日本語学習支援を充実させる）
- その他………外国人がいることでプラスの面がある（例えば「企業において外国人がいることにより視点が広がる」など、）という認識を広げる

3

外国人と日本人がともに生活するために、日本人が積極的に行わなければならないことがあれば教えてください。

- 外国人文化の理解………市内における外国人料理のお店に行き食文化を学んだり、日頃からコミュニケーションをとりながら地域のルールを教える（外国人の文化を理解した上で日本のルールを伝えることが重要）
- 働きやすい環境………外国人を雇用する企業において、例えば遅刻などがあつた際、理由を確認することや、日本語学習の支援をするなど
- その他………過剰な優しさは不要、あくまでも日常社会の一員として接する

# ヒアリング内容ごとの意見の要旨について

## 設問

## 聞き取り要旨

4

外国人と日本人がともに生活するために、外国人が積極的に行わなければならないことがあれば教えてください。

- 日本語の習得……………日本の文化やルールも理解できるようになり暮らしやすくなる。
- その他……………日本人とコミュニケーションをとる（例えば、自治会に加入したり地域のイベントに参加するなど）  
日本の生活スタイルを受け入れ、「外国人だから特別」といった考えをなくす

5

国籍が異なる外国人同士ともに生活するために大切にしなければいけないことはありますか。

- 異文化への理解……………お互い知り合う機会が必要  
外国人同士で理解できない部分があっても排他的にならない  
違う文化を持つ人と触れあい、「自分の当たり前が当たり前ではない」ということを知る

6

日本語をうまく話せない子どもたちが、しっかりと教育を受けるために必要なことがあれば教えてください。

- 学校以外での支援……………放課後等で日本語を学ぶことができる機会の充実  
就学前の日本語教育や日本の学校生活の知識の習得  
→小学校入学後に自信を持つのに有効
- 子どもを育てる親への支援……………子どもと一緒に日本語を学んでいける環境づくりが重要（子どもが日本語を覚えていく一方で、親が日本語を話せないままになると進路のことなど、子ども自身に任せきりになってしまう）